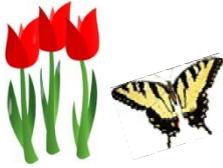


図書館だより



No.193

4/23~5/12は
こどもの読書週間です。

2015(平成27)年3月6日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



◆ 展示のお知らせ ◆

東日本大震災等パネル展

第2研修室(3F):2月28日~3月15日

展示コーナー(玄関横):3月6日~4月1日

あわせて公開図書室中央通路にて、東日本大震災福島県復興ライブラリーのブックガイドでご紹介した震災関連図書の展示を行います(3/6~4/1)。今まで発行したブックガイド及び震災復興ライブラリー資料一覧は当館のホームページからご覧いただけます。



受賞児童図書展 展示コーナー/4月3日~

2014年に「児童文学のノーベル賞」とも呼ばれる国際アンデルセン賞を受賞した上橋菜穂子氏の児童文学作品を中心に、世界的な児童文学賞の受賞作を展示します。

【展示予定】

カーネギー賞、ケイト・グリーンウェイ賞、コルデコット賞、ニューベリー賞の最近の受賞作及び、国際アンデルセン賞の過去の日本人受賞者(赤羽末吉、安野光雅、まどみちお)の作品の展示

※展示してある図書は貸出も行います。ぜひご利用ください。

※展示の内容は一部変更されることがあります。

福島県立図書館移転30周年記念事業

図書館の至宝展

「福島県史跡名勝の『鳥瞰図』」

2月21日~4月1日まで



◆ 各種展示 ◆

公開図書室にて展示中!

【ミニ展示】「仏像の魅力」(~4/1)

円空や仏像についての本を展示

【ミニ展示】「お江戸百花繚乱」(~5/6)

徳川家、江戸を特集した雑誌を展示

【時事展示】「新生活に向けて」(~5/6)

新生活を始める方への本の展示

◆ ロビー展示 ◆

軽読書コーナー横の通路で展示中!

2月21日~4月1日 絵画作品展 静物画・風景画の作品展

4月3日~5月6日 折り紙手紙展 折り紙をはがきに貼り、季節感のあるお便りにした作品展

5月8日~6月3日 手漉き和紙に魅せられて 和紙作成の工程の写真展

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『オペラ座のお仕事 世界最高の舞台をつくる』
三澤洋史／著 早川書房 2014.10 766.1/並 14X/
オペラというと格調高い優雅なイメージですが、その舞台裏はハプニングが付き物だった！？個性的な外国人指揮者たちとのエピソードや舞台稽古中のおどろきの出来事・著者の音楽へのこだわりなど、新国立劇場専属の合唱指揮者の著者が語るオペラ座の舞台裏と人間模様に思わずクスツとしてしまう、クラシック音楽やオペラを観たことがなくても楽しめる一冊です。

『トリーズの発明原理 40 あらゆる問題解決に使える<科学的>思考支援ツール』

高木 芳徳／著 Discover21 2014.8 507/并 148/
TRIZ や発明原理という耳慣れないワードに敬遠してしまいそうですが、しかしそうするには勿体ない程の可能性を本書は秘めています。TRIZ とは1950年代にソ連の特許審査官が、200万件以上の特許から分野を超えた共通点を見出し、それを基に作り上げた発明と問題解決の理論体系のことです。今なお進化を続けるそのシステムの中から、基礎となる40の発明原理とその使い方を紹介しているのが本書なのです。手法を理解するまでが難しさを感じますが、一度身につけてしまえば非常に頼りになる思考法です。

『うるわしき戦後日本』

ドナルド・キーン／著 堤清二(辻井喬)／著
PHP 研究所 2014.11 361.5/并 14Y/
対談形式で展開されるキーン氏と堤氏のかたらいは、東山文化から続く日本人の美意識・美の文化からはじまり、戦後の日本文化を育てた文学界にまで及びます。日本人の心に昔からあるその美意識は、「かたちあるものを流され、失っても、必ず再建できる」力を持っているとキーン氏は語ります。文学者でもある二人と交流のあった三島由紀夫・阿部公房など昭和の文壇たちのエピソードも見どころです。

児童・児童図書研究

『全員少年探偵団』

藤谷治／著 ポプラ社 2014.12 J913.6/7
吉田元基君は小学6年生。宝飾デザイナーのお父さんが最近元気のないのを心配していたある日、「カクイ」と名乗る怪しい男が訪ねてきて……。江戸川乱歩の著名なシリーズをもとに創作された本書は、現代を舞台にしながらも(小林少年がスマホを持っている!)、勇敢な少年探偵団を忠実に蘇らせることに成功しています。怪人二十面相が狙うのは、呪われた宝石ばかりで作られた美しい首飾り。乱歩ファンも初めて読む人も、大人も子どもも楽しめること間違いなしです。

雑誌・新聞

トマ・ピケティが著した『21世紀の資本』は、100万部を超える世界的な大ベストセラーとなりました。昨年末に日本でも翻訳本が刊行され話題を呼んだ本著や著者について特集された雑誌を紹介しします。

*ピケティ『21世紀の資本』を私はこう読んだ
Z/051/S31『新潮45』2015年3月号

*ピケティ狂騒曲
Z/051/N11『Newsweek』2015年2月24日号

*そうだったのか!ピケティ『21世紀の資本』
Z/330.5/S7『週刊ダイヤモンド』2015年2月14日号

*ピケティ完全理解
Z/330.5/T4『週刊東洋経済』2015年1月31日号

*ピケティ『21世紀の資本』を読む
- 格差と貧困の新理論
Z/105/G1『現代思想』2015年1月臨時増刊号

*トマ・ピケティの格差社会と日本 松元崇／著
Z/365/D1『ライフデザインレポート』2015年1月号

*発想の転換を!
- ピケティの『21世紀の資本論』を超えて -
Z/333/S1『生活経済政策』2014年12月号

*ピケティにも申す!
Z/330.5/E1『エコノミスト』
2015年2月17日特大号

地域

『福島のおきて フクシマを楽しむための51のおきて』
福島県地位向上委員会／編
アース・スターエンターテイメント 2014.10
L291/F18/1

福島県各地の買い物・グルメ、学校、生活習慣などが51の「おきて」として紹介されています。第1のおきて「買い物するならヨークベニマル」から思わずニヤリ。読み終わるころには、福島の良さ・魅力を再認識できていることでしょう。章間のコラムにも注目です。新たな発見があるかも……。これから、福島で暮していく人にも、福島を楽しむ入門書としてオススメです。

『空の走者たち』

増山実／著 角川春樹事務所 2014.12 L913.6/M39/1
2020年の東京五輪で一人の女性がマラソン代表に選出された。なぜ彼女はこれほどのランナーに成長できたのか。須賀川を舞台に、ふたつの東京五輪と「青空」でつながる二人のランナーの出会い、時空を越えた物語が繰り広げられます。1960年代のノスタルジックな町の描写や綿密な取材に基づく新たな円谷幸吉像は一読の価値あり。青空のように爽やかな読後感を味わえる一冊です。